

# T&M通信

～税務と経営～

## 2021年8月号

### 今月の経営チェックポイント✓

- 8月、9月決算法人の方は、賞与等決算の対策の準備をして下さい。
- 8月13日（金）～8月16日（月）当事務所はお盆休みとさせていただきます。
- 8月9日（月）は山の日です。

### 納税期限スケジュール

- 個人事業税の第1期分の納付は8月31日（火）までです。
- 個人住民税普通徴収税額第2期分の納付は8月31日（火）までです。



## 着眼点 「インボイス登録制度について」

税理士 田中 彰

暑中お見舞い申し上げます。猛暑が続くので皆様体調には十分ご注意ください。

さて、開催に賛否両論あった東京オリンピックは競技の真っ只中です。選手たちの頑張る姿を見れば応援したくなり、勝利に歓喜する姿には感動を覚えます。しかし一方では、コロナの蔓延に歯止めがかからず、なんとも中途半端な気分で過ごす今日この頃です。

人々の語らいや国内および国外の行き来を自由に出来る日が待ち遠しいです。飲食業をはじめ、皆さんのお仕事気が兼ねなく行える状況に戻らなくてはなりません。一日も早いコロナの終息を祈るばかりです。

ところで、先月に続き消費税のインボイスの話題で恐縮ですが、令和5年10月から諸費税のインボイス方式が導入されるにあたり、今年10月1日から適格請求書発行（インボイス）事業者の登録申請が開始されます。また、インボイス方式が導入される令和5年10月1日からこの登録を受けるためには、原則として、令和5年3月31日までに登録申請書の提出を済ませる必要があります。つまり、1年半の間に申請を行わなければなりません。

現行の消費税制度では、免税事業者など課税事業者以外の者からの仕入れであっても、課税仕入れに係る消費税分の仕入税額控除が認められていました。ところが、インボイス方式が導入されると適格請求書発行事業者以外の者からの仕入れについては、原則として仕入税額控除の適用が認められなくなります。すると、消費税の納税額が相当過大になることが予想されます。注意すべきは、適格請求書発行事業者の登録制度が創設され、課税事業者であっても、登録しなければ適格請求書等を発行できないということです。ですから該当する事業者の方は、必ず登録申請をしてください。

#### 登録制度の流れ

- ① 事業者は税務署に登録申請書を提出する。
- ② 税務署による審査が行われる。
- ③ 登録及び公表・登録簿への登載（登録年月日）
- ④ 事業者に対して税務署からの通知（登録番号）

当事務所の顧客の皆様方については、該当される方に対して当事務所において適格請求書発行事業者登録手続きをさせて頂こうと考えています。登録開始の日が迫ってまいりましたので、皆様のご協力をお願いいたします。ご不明な点がありましたらご質問ください。

(参考文献) 月刊 税理 8月号 (日本税理士連合会監修) ぎょうせい

## ●約束手形・小切手の全面電子化について

皆さんは約束手形や小切手をご存知でしょうか。ほとんどの方が聞いたことのある言葉だと思いますし、実際に約束手形・小切手で支払い、もしくは受取りを日々行っている方も少なくないのではと拝察します。両者何となく類似しているように感じますが、大きく違うのは支払サイトの長さです。小切手は好きな時に基本無料で現金化できますが、約束手形は発行日から支払まで平均 100 日 (限度は 120 日) かかり、期日より早く現金化しようと思えば手数料が必要です。

そんな約束手形・小切手ですが、2026 年をめどに利用を廃止する方針であることが決定しています。約束手形の廃止が求められる理由の 1 つは、上に挙げた支払サイトの長さです。売上は上がっていても、実際に現金が入ってくるのは約三か月後となると、資金繰りの負担になることは想像に難くありません。また、手形・小切手ともに「紙」であるという点が問題視されています。環境面 (資源削減) はもちろんのこと、紙である以上現金と同様の扱いが求められるため管理が必要、そして管理には人手が必要、すなわち働き手不足問題にも関わってきってしまうということです。

代替案も既に提示されており、約束手形は電子記録債権へ、小切手はインターネットバンキングへ移行を求める予定のようです。今まで約束手形・小切手で取引を行うことが慣習化していた企業では、5 年後の話ですが今のうちから取組が必要かもしれません。

(文責: 松原 礼)

## ●オリンピック

2021 年 7 月 23 日に 1 年延期された東京五輪が開会しました。開催については賛否両論あるかと思いますが、いざ始まってみればやはり観戦してしまいます。開会式を家で見ていると両親が 1964 年に開催された際は、選手の入場は全員足並みを揃えて行進していたとか、開会式は昼からしていたとか色々懐かしそうに話しながら観ていました。

今回の開会式で印象的だったのが、ピクトグラムのパフォーマンスでした。いつも何気なく見ているマークで注目はしたことはなかったので、開会式でパフォーマンスを観た時は、全 33 競技 50 種類もあり、日本が 1964 年の東京オリンピック開催時にピクトグラムは、視覚記号の 1 つで、外国語によるコミュニケーションをとることが難しい日本人と外国人の間を取り持つために、開発したものだ知り驚きました。パフォーマンスで観ることで印象にも残りまし、今後また増えていくのかなと思うと今後注目してみようかなと思いました。

今この記事を書いている時点では、前半が終わろうとしているところです。自分自身は国を背負ったこともないですし、人生をかけてそれだけの為に頑張った事も正直に言ってないです。でも、このコロナ禍の中開催されたオリンピックでどんな思いで選手たちは臨んでいるのだろうと思うと、私は素直に「応援したい人は応援していい!!」と思い毎日応援し感動をもらっています。どの競技も魅力的で面白いですが、私が今一番感動したのは柔道の阿部一二三選手・阿部詩選手の兄妹の同日金メダルです。同日に金メダルだけでも凄いのに兄妹でその夢を成し遂げたことも凄いなと思いました。

このコロナ禍の中での開催で複雑なところはありますが、私は後半のオリンピックも家で観戦し選手を応援したいと思います。

(文責: 井上 知己)